

授業科目

保健統計学

| | | | | |
|----------------|------|----|-------|-------|
| 担当教員名 遠藤 和男 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 作業・言語 |
| | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

ディプロマポリシーとの関連性

| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
|-------|-------|-------|----|-------|
| ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ |

授業の概要

保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒業現場でも応用できる統計学の方法を学修する。医療の現場でも重視されている、E B M (Evidence-based Medicine) の基礎についての修得を目指す。

授業の目的

証拠に基づいた医療である E B M (Evidence-based Medicine) を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

学習目標

1. 証拠に基づいた医療である E B M の重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. コンピュータ学習 (C A D) に積極的に参加する。
4. 正しい統計学的手法を選択できる。
5. 適用した検定結果について正しく判断できる。
6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

授業計画

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | 学習方法・学習課題・備考 | 担当教員 |
|----|----------------------------------|-------------------|---------|
| 1 | データの代表値、散布度について学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 2 | 基本統計のまとめ：度数分布表及びヒストグラムの描き方を演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 3 | 統計学的手法の検定の手順及び基本的な統計分布の意味を学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 4 | 2群の平均値の比較について様々な方法を演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 5 | 保健衛生の指標及び率の調整方法について学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 6 | 年齢調整法のうち、標準化について演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 7 | 疫学研究のさまざまな型と実際に用いられる指標について学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 8 | 後向き調査の手法を用いて、食中毒の原因解明について演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 9 | 記述疫学の方法とアンケート調査の実践について学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 10 | 実際に調査、集計された結果を用いて分析・評価を行う。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 11 | 地域相関研究の考え方、相関係数の求め方について学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 12 | 相関係数を求め、地域相関の資料に基づいて演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 13 | スクリーニングの基礎である感度及び特異度の意義を学ぶ。 | 講義と小テスト | 遠藤 和男 |
| 14 | スクリーニングの各指標の変化について演習する。 | 演習(助手または A T が応援) | 遠藤 和男 他 |
| 15 | まとめ | 講義と演習 | 遠藤 和男 |

使用図書

| 使用図書 | 書名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 | 価格 | その他 |
|--------|--|------|-----|-------|----------|-----|
| 教科書 | 保健統計テキスト改訂版 | 遠藤和男 | 考古堂 | 2010年 | 2,800円+税 | |
| 参考書 | | | | | | |
| その他の資料 | 必要に応じて統計数値表などの補足資料を配布する。 講義の際には P P t の資料を配布するので、ノート代わりとして活用すること。 | | | | | |

評価方法

- 1) 奇数回目の最後に小テストを実施し、翌週解説する：約10%
- 2) 偶数回目にはレポートを提出してもらい、翌週解説する：約10%
- 3) 筆記試験では電卓の持ち込み可(携帯の計算機能使用不可)：約80%
・3)の出来具合によって、1)及び2)の割合を加減する。

履修上の留意点

※H27年度の入学生は、新学習指導要領によって、高校1年時の数学Iでデータの分析、2年時の数学Bで確率分布と統計的な推測を学んだはずなので、事前に十分に復習のこと。

数学が弱いと思う場合、「学習支援センター」が開催する「統計学基礎セミナー」を必ず受講して下さい。

*当初戸惑うでしょうが、現場ではこれ以上のレベルが求められているのです！必要最低限の知識は覚えること！
なお、おそらくS T学科との合同授業になると思われます。

オフィスアワー・連絡先

毎週月曜日3限

endo@nuhw.ac.jp

授業に関する質問などは、メールアドレスまでご連絡ください。